

平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



平成27年1月30日

上場会社名 キーコーヒー株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 2594 URL <http://www.keycoffee.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 柴田 裕  
 問合せ先責任者 (役職名) 財務部長 (氏名) 三上 武善 (TEL) 03-3433-3311  
 四半期報告書提出予定日 平成27年2月9日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第3四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	42,810	3.2	1,284	△27.5	1,677	△19.1	982	△22.9
26年3月期第3四半期	41,488	△1.2	1,771	28.4	2,073	30.5	1,274	39.6

(注) 包括利益 27年3月期第3四半期 1,273百万円(△9.5%) 26年3月期第3四半期 1,407百万円(38.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	43.33	—
26年3月期第3四半期	56.17	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第3四半期	50,365	36,960	71.2
26年3月期	47,553	36,047	73.5

(参考) 自己資本 27年3月期第3四半期 35,870百万円 26年3月期 34,970百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	7.00	—	8.00	15.00
27年3月期	—	8.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	8.00	16.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	56,000	4.4	680	△56.1	1,180	△39.2	710	△30.8	31.30

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料の5ページ「2. サマリー情報 (注記事項)に関する事項(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	27年3月期3Q	22,689,000株	26年3月期	22,689,000株
② 期末自己株式数	27年3月期3Q	7,945株	26年3月期	7,945株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	27年3月期3Q	22,681,055株	26年3月期3Q	22,681,055株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信 (添付資料) 4ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	13
(セグメント情報等)	14

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年12月31日までの9ヶ月間）におけるわが国経済は、政府による経済政策や金融政策により緩やかに回復の兆しが見られたものの、個人消費につきましては、平成26年4月に実施された消費税増税前の駆け込み需要による反動減の影響や生活必需品の値上がり傾向が顕在化するなど厳しい状況が続きました。

コーヒー業界におきましては、業績に大きな影響を及ぼすコーヒー生豆相場が平成26年初頭から高騰し10月には1ポンド200セントを突破するなど高値圏にあり、さらに為替相場が日銀の追加金融緩和策によって7年ぶりに1ドル120円を突破する急激な円安に進行するなど、先行き不透明な状況が続いております。

このような状況の下、当社グループはコーヒーの持つ魅力を生活者にお届けし続けるという企業使命を果たすため、「品質第一主義」の経営理念に基づいて、「ブランド強化」、「収益力の強化」及び「グループ連携強化」を3つの柱とし、新たな事業領域の開拓、生活者のニーズにお応えする新商品の開発やお取引先との絆を深める企画提案型の営業活動を継続して行いました。

平成26年3月末に新橋と虎ノ門を結ぶ新虎通りが開通し、カジュアルカフェ「KEY'S CAFE - CLASSE - (キーズカフェ クラッセ)」を、株式会社アマンドは「ALMOND FROZEN RING Cafe(アマンド フローズンリングカフェ)」を6月にそれぞれ新虎通り沿いに出店しました。海外においても、インドネシア・南スラウェシ州（スラウェシ島）のマカッサル市内に、インドネシア国内での「トアルコ トラジャ」のブランド認知を目的とし、グループ間の経営資源を活かしたコーヒーショップ「TOARCO TORAJA COFFEE」を6月に開店しました。

また、当社は平成27年1月よりillyブランドのレギュラーコーヒー製品を日本国内で独占的に販売する契約をイタリアのコーヒーメーカーillycaffè S.p.A.（イリカフェ社）と締結しました。

コーヒー生豆相場の高騰に円安が加わった原材料価格の大幅アップに対しては、ローコスト経営の徹底を行う一方、秋口からは価格改定を全社一丸となって推進しておりますが、原価上昇分を補うことができず、この結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間の売上高は、連結子会社化したhonu加藤珈琲店株式会社の売上も含め428億10百万円（前年同期比3.2%増）となり、利益面では、営業利益は12億84百万円（同27.5%減）、経常利益は16億77百万円（同19.1%減）、四半期純利益は9億82百万円（同22.9%減）となりました。

セグメントの営業概況は次のとおりであります。

## (コーヒー関連事業)

業務用市場では、「トアルコ トラジャ コーヒー」や「氷温熟成珈琲」など差別性の高いプレミアムコーヒーの拡販活動を推進しました。お取引先への支援策としては、春夏期に「カレーフェア」を、秋冬期に「シチューフェア」をそれぞれ実施しております。新商品としては、シユ克蘭ジュシリーズに「フルーツグラノーラのチーズケーキ」や「彩り野菜のカップケーキ」、プロジージュシリーズに「クリームシチュー〜チーズ仕立て〜」などを発売しました。10月には3回目となる「KEYCOFFEE SHOW」を東京で開催し、当社グループの業容や提案活動を総合的に紹介しました。

家庭用市場では、春夏商品として大容量レギュラーコーヒーのカテゴリーに「FP（フレキシブルパック）グランドテイスト」シリーズ（4アイテム）、簡易抽出のカテゴリーには、コーヒー生豆からカフェインを97%カットした「DO（ドリップオン）カフェインレスコーヒー」を、インスタントミックスタイプのカテゴリーには、スティックタイプの新商品を投入しました。秋冬商品としては、ブレンド・焙煎・鮮度にこだわった渾身の逸品「アロマフラッシュ『100年への集大成』」（2アイテム）やアラビカ種100%の「『有機栽培』オーガニックコーヒー100%」をVP（真空パック）とLP（ライブパック）の商品形態で発売しました。また、コーヒー本来のゆたかなコクを安定的に引き出すために形状をダイヤカットにした画期的なコーヒー抽出器具「KEY クリスタルドリップ」を新たに発売しました。

ギフト商品では、中元期に「天然水プリズマ飲料ギフト」、「氷温熟成珈琲アイスコーヒーギフト」など人気の飲料ギフトを中心に全35アイテムをラインアップし、歳暮期にはモンドセレクション金賞を5年連続受賞した「ドリップオン」ギフトKDBシリーズなど、多様な飲用シーンにあわせた全24アイテムをラインアップしました。

業績につきましては、売上面では市場環境の変化や夏場の天候不順により原料用市場は販売実績が前年同期を下回りましたが、業務用市場、家庭用市場についてはCVS向けカウンターコーヒーの伸張も含め堅調に推移し増収となりましたが、利益面では、コストの上昇が企業努力を上回るなど厳しいものであったため減益となりました。

以上により、当第3四半期連結累計期間におけるコーヒー関連事業の売上高は、351億83百万円（前年同期比0.4%増）、営業利益は16億59百万円（同20.4%減）となりました。

#### （飲食関連事業）

株式会社イタリアントマトでは、「COLD PASTA FAIR」や「冬のフードフェア」などの季節ごとのメニューフェアを実施しました。また、「国内は充実」「海外は拡大」の方針に加え新業態の店舗の開発を促進することとし、国内では東京駅一番街に、利用シーンにあわせて上質なおいしさを提供する新業態店舗「カフェ&パール フェリブール東京駅一番街店」、「イル・ヴィゴレ神田神保町店」などの出店を行い、海外ではASEAN地域での拡大を進め香港に「カフェ 香港フォーチュンシティワン店」、中国に「カフェジュニア 厦門大学店」など、国内外に13店出店する一方、不採算店13店を閉鎖し、店舗数は302店（直営店74店、FC店228店）となりました。また、効率的な生産・供給体制を構築するため、首都圏の3工場を集約した東京工場グランデを11月に竣工しました。

業績につきましては、大型商業施設に出店している店舗の多くが消費税増税の影響により集客力が低下したことや直営店舗が減少したことなどが売上面に影響を及ぼし、乳製品をはじめとした原材料価格や人件費の高騰も影響し利益面では厳しい結果となりました。

以上により、当第3四半期連結累計期間における株式会社アマンドを含めた飲食関連事業の売上高は44億49百万円（前年同期比3.5%減）、営業利益は1億18百万円の営業損失（前年同期は5百万円の営業利益）となりました。

#### （その他）

平成26年2月に連結子会社となったhonu加藤珈琲店株式会社を加えたその他事業の売上高は31億77百万円（前年同期比73.9%増）、営業利益は2億21百万円（同58.5%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

総資産は前連結会計年度末に比べて28億11百万円増加し、503億65百万円となりました。

流動資産は19億31百万円増加し、260億30百万円となりました。これは受取手形及び売掛金の増加(22億16百万円増)などによるものであります。

固定資産は8億80百万円増加し、243億35百万円となりました。有形固定資産は、建物及び構築物の増加(1億21百万円増)などにより2億13百万円増加しました。無形固定資産は、償却が進んだことなどにより91百万円減少しました。投資その他の資産は、投資有価証券の増加(8億36百万円増)などにより7億57百万円増加しました。

(負債)

負債は前連結会計年度末に比べて18億98百万円増加し、134億4百万円となりました。

流動負債は前連結会計年度末に比べて17億65百万円増加し、108億63百万円となりました。これは支払手形及び買掛金の増加(16億43百万円増)などによるものであります。

固定負債は前連結会計年度末に比べて1億32百万円増加し、25億41百万円となりました。これは繰延税金負債の増加(1億83百万円増)などによるものであります。

(純資産)

純資産は前連結会計年度末に比べて9億13百万円増加し、369億60百万円となりました。これは利益剰余金の増加(6億22百万円増)、その他有価証券評価差額金の増加(2億96百万円増)などによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、当第3四半期連結累計期間の実績および業績に大きな影響を及ぼすコーヒー生豆相場・為替相場や販売状況等を踏まえて見直しを行った結果、平成26年10月27日に公表しました通期連結業績予想を修正しております。

平成27年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	55,000	920	1,340	730	32.18
今回修正予想(B)	56,000	680	1,180	710	31.30
増減額(B-A)	1,000	△240	△160	△20	—
増減率(%)	1.8	△26.1	△11.9	△2.7	—
(ご参考:前年実績) (平成26年3月期)	53,622	1,547	1,940	1,026	45.25

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更しております。割引率の決定方法についても、従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第3四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る資産が0百万円増加、退職給付に係る負債が4百万円減少し、利益剰余金が2百万円増加しております。なお、損益に与える影響は軽微であります。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,951	8,676
受取手形及び売掛金	7,276	9,493
有価証券	4,788	4,510
商品及び製品	1,214	1,411
仕掛品	142	210
原材料及び貯蔵品	1,037	1,243
繰延税金資産	377	153
その他	337	354
貸倒引当金	△28	△23
流動資産合計	24,098	26,030
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,804	5,925
機械装置及び運搬具（純額）	1,868	1,890
土地	6,334	6,334
その他（純額）	784	854
有形固定資産合計	14,792	15,005
無形固定資産		
のれん	442	379
その他	340	312
無形固定資産合計	783	692
投資その他の資産		
投資有価証券	5,639	6,476
長期貸付金	136	121
繰延税金資産	19	83
退職給付に係る資産	4	5
差入保証金	1,755	1,609
その他	585	604
貸倒引当金	△261	△263
投資その他の資産合計	7,879	8,637
固定資産合計	23,455	24,335
資産合計	47,553	50,365



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,302	6,946
短期借入金	105	181
未払金	1,565	1,679
未払法人税等	427	210
賞与引当金	636	297
その他の引当金	-	1
その他	1,058	1,547
流動負債合計	9,097	10,863
固定負債		
長期借入金	94	73
繰延税金負債	132	316
再評価に係る繰延税金負債	557	557
その他の引当金	-	6
退職給付に係る負債	753	698
資産除去債務	265	301
その他	605	588
固定負債合計	2,408	2,541
負債合計	11,506	13,404
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,628	4,628
資本剰余金	5,037	5,037
利益剰余金	28,077	28,700
自己株式	△13	△13
株主資本合計	37,731	38,354
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	643	939
土地再評価差額金	△3,623	△3,623
為替換算調整勘定	△4	△2
退職給付に係る調整累計額	224	202
その他の包括利益累計額合計	△2,760	△2,483
少数株主持分	1,076	1,090
純資産合計	36,047	36,960
負債純資産合計	47,553	50,365

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	41,488	42,810
売上原価	28,739	29,998
売上総利益	12,749	12,811
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費及び見本費	883	1,073
荷造運搬費	845	1,003
車両費	382	398
貸倒引当金繰入額	20	3
役員報酬	231	256
給料及び賞与	4,444	4,331
賞与引当金繰入額	235	234
退職給付費用	138	132
福利厚生費	733	730
賃借料	837	874
減価償却費	261	279
消耗品費	261	294
研究開発費	161	173
その他	1,540	1,740
販売費及び一般管理費合計	10,978	11,526
営業利益	1,771	1,284
営業外収益		
受取利息	20	15
受取配当金	189	254
持分法による投資利益	57	41
受取家賃	34	33
その他	47	68
営業外収益合計	349	412
営業外費用		
支払利息	8	7
為替差損	35	3
その他	4	10
営業外費用合計	47	20
経常利益	2,073	1,677

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
<b>特別利益</b>		
固定資産売却益	1	-
投資有価証券売却益	130	-
受取補償金	-	300
受取賠償金	15	8
特別利益合計	147	308
<b>特別損失</b>		
固定資産売却損	-	18
減損損失	10	192
その他	0	-
特別損失合計	10	210
税金等調整前四半期純利益	2,209	1,774
法人税、住民税及び事業税	758	584
法人税等調整額	170	195
法人税等合計	929	779
少数株主損益調整前四半期純利益	1,280	995
少数株主利益	6	12
四半期純利益	1,274	982

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,280	995
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	130	297
為替換算調整勘定	△4	1
退職給付に係る調整額	-	△21
持分法適用会社に対する持分相当額	0	0
その他の包括利益合計	126	277
四半期包括利益	1,407	1,273
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,400	1,258
少数株主に係る四半期包括利益	6	14

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	2,209	1,774
減価償却費	912	936
減損損失	10	192
固定資産売却損益(△は益)	△1	18
投資有価証券売却損益(△は益)	△130	-
受取補償金	-	△300
受取賠償金	△15	△8
貸倒引当金の増減額(△は減少)	8	△2
賞与引当金の増減額(△は減少)	△289	△339
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△38	△52
受取利息及び受取配当金	△210	△269
支払利息	8	7
持分法による投資損益(△は益)	△57	△41
売上債権の増減額(△は増加)	△1,900	△2,215
たな卸資産の増減額(△は増加)	△115	△469
仕入債務の増減額(△は減少)	1,099	1,643
未払金の増減額(△は減少)	103	△22
その他	248	477
小計	1,843	1,328
利息及び配当金の受取額	199	263
持分法適用会社からの配当金の受取額	11	11
利息の支払額	△7	△6
補償金の受取額	-	300
受取賠償金の受取額	16	10
法人税等の支払額	△1,024	△802
法人税等の還付額	0	18
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,037	1,122
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△3,000	△3,000
定期預金の払戻による収入	-	3,000
有価証券の取得による支出	△6,500	△7,500
有価証券の償還による収入	6,500	7,500
投資有価証券の取得による支出	△1,076	△365
投資有価証券の売却及び償還による収入	571	134
有形固定資産の取得による支出	△1,000	△1,089
有形固定資産の売却による収入	4	14
無形固定資産の取得による支出	△38	△8
その他	△235	114
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,774	△1,199
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	120	186
短期借入金の返済による支出	△329	△100
長期借入れによる収入	140	-
長期借入金の返済による支出	△72	△35
配当金の支払額	△314	△358
その他	△68	△65
財務活動によるキャッシュ・フロー	△526	△373

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
現金及び現金同等物に係る換算差額	△4	△0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△4,267	△451
現金及び現金同等物の期首残高	10,270	7,138
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,002	6,687

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項  
(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	コーヒー 関連事業	飲食 関連事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	35,051	4,610	39,661	1,827	41,488	—	41,488
セグメント間の内部売上高 又は振替高	361	1	362	939	1,302	△1,302	—
計	35,412	4,611	40,024	2,767	42,791	△1,302	41,488
セグメント利益	2,084	5	2,089	139	2,228	△457	1,771

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、飲料製品製造事業、オフィスサービス事業及び通販事業、運送物流事業、保険代理店事業等を営んでおります。
2. セグメント利益の調整額 △4億57百万円には、セグメント間取引消去 4百万円、棚卸資産の調整額 6百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 △4億68百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	コーヒー 関連事業	飲食 関連事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	35,183	4,449	39,632	3,177	42,810	—	42,810
セグメント間の内部売上高 又は振替高	364	4	369	1,179	1,548	△1,548	—
計	35,547	4,454	40,001	4,357	44,359	△1,548	42,810
セグメント利益又は損失 (△)	1,659	△118	1,541	221	1,762	△477	1,284

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、飲料製品製造事業、オフィスサービス事業及び通販事業、運送物流事業、保険代理店事業等を営んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額 △4億77百万円には、セグメント間取引消去 △28百万円、棚卸資産の調整額 △2百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 △4億46百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。